

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [25926] トキソプラスマ抗体 IgG 《EIA》
- [25929] トキソプラスマ抗体 IgM 《EIA》

受託開始日

- 平成25年12月2日(月)

トキソプラズマ抗体

トキソプラズマ (*Toxoplasma gondii*) は長さ4~7 μ mの半月形の胞子虫類に属する原虫です。最終宿主がネコ科の動物であり、代表的な人畜共通感染症 (zoonosis) の一つであるトキソプラズマ症の原因病原体です。

通常はヒトの体内に侵入しても免疫システムにより防御されるため、発症することは少なく、ほとんどが不顕性で推移しますが、時折リンパ節炎や網脈絡膜炎を引き起こします。

トキソプラズマ感染で最も重要なのは、妊婦が感染した時に胎児に発症する「先天性トキソプラズマ症」です。母親が妊娠中にトキソプラズマの初感染を受けると、胎児への急増型虫体の経胎盤感染により、その約40%に先天性トキソプラズマ症を発症するといわれています。先天性トキソプラズマ症は、水頭症、網脈絡膜炎、脳内石灰化、精神運動障がいなどが四徴とされ、他にも肝脾腫や発育不良などを起こすことがあります。

従来、トキソプラズマ症の診断にはスクリーニングとして赤血球凝集法 (PHA法)、さらに蛍光抗体法 (IFA法) によるグロブリンクラス別検査が用いられてきましたが、これらの検査はトキソプラズマの虫体そのものを抗原とする抗体検査でした。

この度、新たに受託を開始するEIA法は精製抗原を用いており、従来法と比べてトキソプラズマ感染症に対する特異性が向上します。

トキソプラズマに感染すると、ほぼ2週間程度でIgM抗体が上昇しますが、前述のように不顕性で症状が認められないケースが多いため、感染時期を推定するのが困難な場合があり、またIgM抗体が1年以上持続して検出される場合もあるため、注意が必要です。

検査要項

項目コード	25926	25929
検査項目名	トキソプラズマ抗体 IgG《EIA》	トキソプラズマ抗体 IgM《EIA》
検体量／保存方法	血清 0.3mL/冷蔵	血清 0.3mL/冷蔵
検査方法	EIA	EIA
基準値	陰性 (-) 6IU/mL 未満 【判定基準】 抗体価 陰性 (-) : 6IU/mL 未満 判定保留 (±) : 6~8IU/mL 陽性 (+) : 9IU/mL 以上	陰性 (-) 0.80 未満 【判定基準】 C.O.I. 陰性 (-) : 0.80 未満 判定保留 (±) : 0.80~0.99 陽性 (+) : 1.00 以上 ※C.O.I.: カットオフインデックス
所要日数	3~6日	3~6日
検査実施料	93点 ([D012] 感染症免疫学的検査 [14] トキソプラズマ抗体)	95点 ([D012] 感染症免疫学的検査 [15] トキソプラズマIgM抗体)
判断料	144点 (免疫学的検査判断料)	144点 (免疫学的検査判断料)

[注] 測定試薬の販売中止に伴い、以下の項目は平成26年3月31日 (月) をもちまして検査受託を中止させていただきます。

[00217] トキソプラズマ抗体《PHA》

[00486] トキソプラズマ抗体-IgG《FAT》

[00487] トキソプラズマ抗体-IgM《FAT》

参考文献

小島 俊行, 他: 小児科診療, 72(9), 1673~1679, 2009.